



日本共産党青梅市議団

青梅市議会議員

みねざき拓実 市議会報告

暮らしの相談、法律相談
(要予約)は、お気軽にどうぞ！

2021年4・5月

連絡先

070-5590-6081

新型コロナ対策

今こそ無症状者を

対象に検査拡大を

定例会一般質問

市民の自粛だけでは、新型コロナウイルスの感染拡大を止めることはできません。検査の拡大で無症状の感染者を発見することが重要ですが、いまだに、発熱などの症状があるか、保健所が「濃厚接触した」と認めた人しか、公的な検査はほぼ受けられません。そして、高齢者施設や病院内で感染がおおると、一気に感染者が増えて医療機関がひっ迫します。

特に、重症化や死亡リスクの高い施設でのクラスターは何としても防がなければなりません。

施設利用者や職員への検査を

2月以降、新規感染者数が減少し、市内のPCR検査体制に余裕ができました。このような時にこそ、検査を拡充すべきです。私は、ドライブスルー方式のPCR検査体制などを活用して、福祉施設の新規利用者や職員が検査を受けられるように、市独自に取り組むことを求めました(一般質問)。

発熱患者にも対応する 新しい休日診療所が建設されます



市の休日診療所は、新型コロナ以降、発熱等の患者さんには屋外で対応していましたが、患者さんの動線を分けることができる新しい休日診療所の建設が始まりました(健康センター横、駐車場内)。完成は6月末の予定です。「『発熱難民』を生まないように、発熱外来の強化を」と私たちも求めています。

新型コロナ対策は両方必要です



ワクチン接種が順次行われる見通しです。ただし、アレルギーなどの理由でワクチン接種できない人もいます。接種は「任意」なので、接種しない人への差別などは防止策が必要です。

そして、そもそも不十分だった検査の拡大、医療機関への支援や保健所の体制強化、減収の補填や生活支援策などをあわせて充実させることが重要となります。青梅市として、総合的に分析し、対策をまとめて市民への発信を強めることも必要です。

青梅市ワクチン接種の概要

～ご不明な点はお問い合わせを

ワクチン接種は、週末に総合体育館(固定)、市民センター体育館(移動)で行われる集団接種が基本で(平日や夜間も別途設置)、予約制です。今後、ワクチンの追加など、情報は随時更新されます。ご不明な点などはお問い合わせください。

小学生移動教室補助まで削る 新年度予算に反対



青梅市の2021年度予算は、小学6年生の移動教室への補助で260万円減(一人あたり2000円強)、小学校16校分の光熱水費で850万円減、同消耗品費で150万円減といった削減が行われました(中学校も同様)。

その一方で、「マイナンバーカードの普及」のためには、市役所の1階に2700万円もかけて「発行ブース」を設置するとしています。

6年生は中学入学の準備もあり、お金がかかります。コロナ禍で収入減の家庭が増え、不安への配慮や勉強の遅れなど、子どもたちへのケアに先生たちは苦労しています。

517億円の市の予算の中で、節約するところが間違えています。また、身近な公共施設を削減する方針のもと、新市民ホールの建設が遅れていること、コロナ対策では無症状者への検査の拡充が行われないことなど、対策として不十分といった観点から、日本共産党青梅市議団は、新年度予算に反対しました(自民、公明、市民フォーラムの賛成で予算は可決)。



印刷代やエアコンも節約に

印刷代節約のため「子どもたちに配布する資料が刷れない」「PTAも学校に印刷代の負担を求められる」との声が、もともと聞こえていました。

さらに、節約を強ければ、コロナ禍の対応にも影響がでかねません。

今までも「夏にあまりエアコンをつけると、冬の暖房代がなくなる」と、言われてきました。コロナ対策で換気が必要なのに、光熱水費を減らして大丈夫でしょうか？」(市内小学校職員)

学校老朽化～補修工事一部実施

雨漏りや外壁の落下の危険性など、学校の老朽化が深刻であることを昨年12月の議会で取り上げました。

市は、昨年4月に全校一斉調査を行い、危険な箇所から順次、対策を行ってきました。2月の補正予算では、12月議会で取り上げた西中学校の屋上防水工事を含む補修工事の予算が盛り込まれました。

2021年度は、痛みの激しい第五小の外壁全面と屋上防水工事が行われることになりました。まだ、老朽化した校舎が多数残されており、さらに改修工事を進める必要があります。



↑屋根の防水シートが破けていました
←築48年経過の西中学校舎

コミュニティバスの実現を！ 「地域公共交通計画」策定へ

コミュニティバスの実現など、暮らしの「足」を確保することは、高齢化が進む中、急務となっています。



青梅市は、2004年にコミュニティバスの運行を検討したものの、これを断念して以来、既存のバスの利用を促進することを対策の中心に掲げました。

しかし、現実にはバスは減便され、市の公共交通協議会内にも「計画の見直しを」と声が上がり始めました。そして、いよいよ2021年度から、新しい計画(地域公共交通計画)の策定を行うことが決まりました。

今度こそ、市民のくらしの実態に合った対策を実現させなければなりません。私は、商業施設や福祉施設などとも連携してコミュニティバスを運行することなど、積極的に提案していきます。ぜひ、みなさんのご意見をお寄せください。

学校トイレ改修費の東京都補助

区市町村が学校トイレの改修を行う際に、東京都が補助を行う制度が2020年度をもって終了する問題は、「あと2年間延長する」見通しであることがわかりました。日本共産党青梅市議団は、昨年「延長を」と申し入れていました。

2年間延長！

